

流山をつなぐ野田！

野田ひろき新聞

2015年4月10日発行 第3号 編集・発行 野田ひろきと共に考える会



みなさんこんにちは、野田ひろき新聞3号をお届けします。

今回は3月28日、流山市在住の旅行作家・劇作家の山本鉱太郎さんを迎えた「ながれやま会議」の様子を中心にお知らせします。県立流山おおたかの森高等学校の校歌を作詞され、『江戸川図志』『新・利根川図志』『川蒸気通運丸物語』など多数の著書をお持ちの山本さんに、文学や演劇を通しての多彩なまちおこし活動について、お話を伺いました。

第4回ながれやま会議

●イントロダクション フリートーク

野田 先回の会議でまちづくりを考えるときに歴史をわかる必要があるという話がありましたが、改めて流山の歴史を知る上でいくつかポイントをおさらいしてみましょう。野馬土手、流山駅…。

会場から オランダ観音、新選組、利根運河、鎌木学校、忠犬小金丸伝説、葛飾庁…。

野田 最近無料化した流山インターの設置に対する市民の運動が今の流山の歴史の始まりだという人がいておもしろい視点だと思いました。

Fさん 物流の栄えたまちの証としての本町、みりん。

野田 平和台駅の駅名が赤城、赤城台、そして平和台になったという話を偶然聞きました。その土地には意味があって名前がついていることを思うと、名前の変遷にも興味を持ちましたね。

●トーク 野田25歳×山本85歳

山本 僕は50年間ふるさと運動をやってるわけね。湯布院とか、木曾谷ですね、ふるさと運動の基本はやっぱりそのまちの歴史を知ってそこから全てが生まれるわけです。各地を視察して、**山本鉱太郎氏**有識者と討論して、ある程度批判的な精神を持ちながらも官民一体となったり、積極的にPR活動をしたり。そして、次の世代の若いリーダーを養成する。それから初心を、小さな運動だった時代のことを忘れずに謙虚に運動する。具体的には、まち並みづくり、江戸時代の宿場を再現するとか、川越や栃木はそういうことをしてきたんですね。

あとは花いっぱい運動、スポーツ、グルメ、歴史文学のイベントを打ち、勉強会、資料館などをつくるとか。利根運河通水100年のときは『青年たちの運河』

というお芝居をやりました。やって、みんながこのまちに住んでよかったなあと、しみじみ思える行事をスクラム組んでやってきました。

野田さんはどんな思想、哲学をもってこの東葛地区を改造したいのか、僕は知りたい。フィーリングではなく、具体的にね。その上で協力できるか考えたい。

野田 ありがとうございます。私は一言で言うと政治は方法論と思っています。今日お話しいただいたふるさと運動のこと、深く心に刻みたいですね。流山の風景が変わっていくところを目の当たりにして身に染みて思うところありますので、心のふるさと流山をちゃんと表現し、行動に移していくないと、まちっていうのはどんどん変わってしまうんだなと、のために活動しようと思いました。そこで選んだのが政治行政、もしくはこういったふるさと運動で、それに関わって死んでいいたいと思っております。

ふるさと運動へのほとばしる情熱と実行力は何をきっかけに始まったのですか？

山本 リーダーになるには素質ってものがありますね、金儲けじゃなく、本当に情熱をもってまちを愛して、謙虚で、死に物狂いでやる若いリーダーを誰もが渴望していると思いますよ。政治も同じ。

野田 まちを愛する、ですか。

山本 歴史を勉強していくと、すごいなあという驚きがあるでしょ。感動が。そしたらおのずと自分のまちを愛さざるを得なくなっちゃうの。

僕は深川の木場の生まれで、流山に友達もない、せっかく来たんだから何か発見したいなと地元の出版社、斎書房に行ってみたのね。で、赤松宗旦の『利根川図志』っていう江戸時代の和綴じの本があって、これはすごいな、これで利根川の勉強しようと、ね。もう一つは博物館で通運丸っていう蒸気船のことを知って、造った石川島播磨重工業（裏面に続く）



(当時)に行ったけど、資料がなくて自分で調べなきゃいけないって、両国から銚子まで何十回も歩いてようやくできた本が『川蒸気通運丸物語』。そしてこんな船が走っていたまちなら、もっと一生懸命勉強してまちのために何かやりたいって思ったのが僕の文化活動の始まり。だから歴史から始まるんです。

野田 すばらしいですね。私、利根運河と、デューイという教育者が好きで、この話すると偉そうって嫌われちゃうんですけど(笑)、デューイは子どもに運河に行かせろって書いてある、ある子は水の流れに興味をもって物理学者を志し、ある子はなんで運河ができるんだろうって歴史学者になるって。大学のとき流山を離れ、ここに戻り知らなかつたことを改めて知ることができました。ありがとうございます。

●会場トーク 歴史を知りたい若者×山本

Tさん 小学生の頃、流山の副読本が配られて、オランダ観音、目つぶしの鴨の話を教わりました。



山本 昔は外国のことはみんなオランダって言つたの。オランダじゃなくてペルシャの馬を徳川の4代から8代将軍が輸入して品種改良しようとしたのね。それで、暴れるから殺したって伝わってるんだけど、調べたら「斃死」って、病死したことが分かったわけ。遠くから来て氣の毒に、って祀られてる小さな観音様だけど、その後ろに日本史そのものがあって、おもしろいなって思います。

Tさん 日本の歴史の中の流山。

山本 そう。だから現象的なものを追わないで、根源的なものに目を向けてみるといいよ。

野田 イベントしてるおおたかの森駅広場のすぐそばにオランダ観音があり、野馬土手がなくなっていることを知らない人は多い。それが悲しいです。

山本 僕は千葉県の道路に名前を付けたんだよ。外房黒潮ライン、利根水郷ライン、流山街道もね。

野田 ゴッドファーザーですね！

山本 愛称をつければ一本一本の道が愛おしくて、みんなで掃除したり木を植えるよね。それから、歩くのがいいよ。藪をかき分け歩くことだよ。

会議を終えて…野田ひろき

山本さんの、「自分からアクションを起こすしかない」という気持ちで学び、仲間をつくり、人生を切り開いてきた姿勢に感銘を受けました。私もこのまちの良さを伝えられるようにさらに深く学びたい。そして、私の母校、八木北小学校の前身、鎧木学校について、論文が書けるようになりたいです。

道路に名前を付けた話からは、まちの課題をいち早く見出すアンテナの大切さを感じるとともに、条例やしくみづくりにおいても、今まで行っていた市民活動と同様、思いやりと自分が当事者であることを忘れずに臨みたいと心しました。

野田ひろき プロフィール

【生年月日】平成元年4月13日(25歳)

【身長・体重】176cm・60kg

【スポーツ経験】ラグビー、ボクシング、バスケットボール、ボルダリング等

【渡航経験】パレスチナ、イスラエル、マレーシア、イギリス、フランス等

【略歴】流山市立八木北小学校、流山市立常盤松中学校、芝浦工業大学柏高等学校、同志社大学文化情報学部を経て、株式会社宣伝会議へ入社。幼少期からボートスカウト流山第3団に所属し、今は指導者に。

流山100か所をランニング、利根運河沿いを横断したりとアウトドア派。流山への想いから、2014年12月をもって会社を辞する。

【好きな音楽】レッド・ホット・チリ・ペッパーズ、クイーン、メタリカ等

「ながれやま会議」は あなたを待っている！

第5回 4月12日(日) 15:00～16:30
以降も開催いたします。

——入場無料・お気軽にお越しください。——

流山市生涯学習センター3階会議室
〒270-0153 流山市中110

TX「流山セントラルパーク駅」下車3分

あなたも野田ひろきと共に考えよう

後援会の加入のお説明です。ご連絡をお待ちしています。

[電話] 090-4950-9992 [メール] nodahiroki1989@gmail.com [HP] <http://www.nodahiroki1989.com/>

カンパは、下記口座までお願いします。※法律の関係から、御名前の記載をお願い致します。

ゆうちょ銀行 ○五八支店 普通預金 野田ひろきと共に考える会 3436118

化学変化が起きる、まちの色が変わる！

野田ひろきと共に……歩こう……走ろう……歌おう……笑おう……遊ぼう……話そう……飛ぼう……流山を考えよう！【討議資料】